2017年2月18日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第14回）

**≪シャーンティ・マントラについて≫**

なぜシャーンティ・マントラを唱えるのでしょうか。それを実践する理由は何でしょうか。一つは、**勉強の前と勉強の後にブラフマンのことを思い出すため**です。もう一つは、**自分のすべてのやり方とブラフマン（神）とが繋がっている状態を作るため**です。

勉強との関係ではどうでしょうか。勉強のときに間違えることがあります。ミスをする可能性があります。そのミス、間違えの原因は何ですか。時々、意識していても間違えることがあります。無意識で間違えることもあります。気を付けないでミスをする可能性があります。

それから時々、感情的になることがあります。それによってミスをすることもあります。例えば、勉強の前に誰かと喧嘩をしました。その後すぐに勉強が始まりました。喧嘩をした後ですから心は圧倒された状態です。圧倒された状態では勉強のとき集中することができません。それでミスをする可能性があります。

それから何にでもルールがありますね。例えば、最初に厳しいやり方があります。しかし、そのやり方に従わないために間違いをする可能性があります。

ミス、間違いがありますと罪を犯す可能性があります。その**ミス、間違いを取り除くため**のマントラがシャーンティ・マントラです。

例えば、プージャ（礼拝）には複雑なものがあり儀式的なことがたくさんあります。そのためにミスをする可能性があります。ですから最後に「神様、もしミスがあったら許してください」とマントラを唱えます。人間は完璧にできないですからそうしないといけないですね。

お母さん、お父さんは自分の息子、娘のミスのことを許してないですか。許しているでしょう。罰のことを考えていないです。我々は神様の子供です。ですから、「神様許してください」と唱えます。神様への祈りです。

もう一つは**障害を取り除くため**です。障害の種類にはアーディダイヴィカ（ādhidaivika）、アーディアートミカ（ādhyātmika）、アーディバウティカ（ādhibhautika）があります。前回、シャーンティが３回あることを言いました。

最初のシャーンティは、自分の問題に対してです。心の問題、身体の問題、例えば、病気がありますと勉強することはできないですね。もしインフルエンザに罹っていれば勉強することができないです。そしてもし心が痛ければ、その状態で勉強することはできないです。「神様それらを取り除いてください」と祈るのが最初のシャーンティです。それがアーディアートミカ（ādhyātmika）です。

それからアーディダイヴィカ（ādhidaivika）です。自然のいろいろな問題があります。例えば、大雪が降ると勉強に来ることができないですね。これは自然の障害です。それから強い台風、地震もあります。「その種類の障害を取り除いてください、その障害が出ませんように」と祈るのが２番目のシャーンティです。

３番目のシャーンティは他の人、他の生き物からの問題に対してです。例えば、近隣の音、例えば、選挙のとき朝から晩まで選挙カーから「お願い、お願い、お願い、〇〇でございます、〇〇でございます、お願い」（笑い）、けっこううるさいですね。また、例えば、犬が大きい声で鳴いていますと勉強はできないです。それらは人間や生き物の障害です。

自分の問題、自然の障害、生き物の障害を止めるために、「シャーンティ、シャーンティ、シャーンティ」と３回祈ります。

**≪聖典の勉強の前に理解しておくこと≫**

次は、すべての聖典の勉強のためにだけではなく、すべての本格的な（serious）本の勉強のために、知らないといけない４つのことをお話しします。それは次の４つです。

１）**Vishaya（ヴィシャヤ）**

２）**Sambandha（サㇺバンダ）**

３）**Adhikāri（アディカーリ）**

４）**Prayojanam（プラヨジャナㇺ）**

**Vishaya（ヴィシャヤ）**

私が**勉強したい内容は何か**を最初にはっきりと理解してください。勉強の前に何を勉強したいのかを理解しないといけないです。Vishaya（ヴィシャヤ）は「**内容**」です。勉強したいものがたくさんあっても本当は何を勉強したいですか。それにフォーカスしないといけないですね。

**Sambandha（サㇺバンダ）**

それから、もう一つ、**本が私の勉強と何の関係があるか**ということを理解してください。例えば、本を読みますね。その本は私の知りたいもの勉強したいものと何の関係がありますか。Sambandha（サㇺバンダ）は「**関係**」です。

例えば、あなたは料理のことを勉強したいとします。料理の勉強をしたいのですから料理の本を探さないといけないですね。音楽の本で料理の勉強はできないです。内容が素晴らしい本であってもその本が私の勉強したいことと関係があるかどうかを考えてください。

私は**何を勉強したいか（ヴィシャヤ）**、それから、私が**勉強したいことと読む本とは何の関係があるか（サㇺバンダ）**を考えてください。

**Adhikāri（アディカーリ）**

もう一つはAdhikāri（アディカーリ）です。勉強のための「**準備**」です。自分の準備がないと勉強してもわからないですね。例えば、あなたがクラシック音楽の本を勉強したいのならば、そのための準備をしないと勉強してもわからないです。

例えば、クラシック音楽の本を勉強するには基礎が必要です。最初の「準備」、基礎的な勉強が必要です。そうしないと突然そのような本格的な本の勉強はできないです。例えば、科学の修士課程の本を勉強するために、あなたは大学、高校、中学校で科学のことを勉強していなければ突然に修士課程の本を勉強することはできないです。準備がないとできません。

またそのような準備がないと勉強することができないばかりではなく、勉強してそれをどのように使うかという問題もあります。例えば、科学を勉強して武器を作れば、勉強した知識が人を殺すために使われることになります。その可能性があります。勉強しても良い方法で使わない可能性があります。

そのためにとても大事なことは聖典の**勉強のための準備（アディカーリ）**が必要だということです。

聖典は「**永遠**」、「**無限**」のことを言っていますね。もしお金を稼ぐために聖典の知識を使いますと**聖典の勉強の目的**はなくなりませんか。しかし、普通の学者はそうしていませんか。お金を稼ぐために聖典の知識、学問を使っています。不適切な使い方（non-properly use）であり正しい使い方ではありません。

**Prayojanam（プラヨジャナㇺ）**

もう一つはPrayojanam（プラヨジャナㇺ）です。**勉強する目的**は何ですか。何のために勉強するのでしょうか。それを考えないで勉強しますと勉強は無駄になります。

例えば、カラスに歯があるかないか（笑い）の調査研究（research study）の本があります。その種類の本は全然意味がないですね。その種類の勉強は本当の無駄ではないですか。それが一つの例です。

たくさんの種類の本がありますがその本を**勉強して自分が何をするのか**を勉強の前に考えてください。

本の勉強の前に今お話ししてきた４つのことを自問してください。最初は**何を勉強したいのか（内容）**、次に**勉強したいことと読む本との間に何の関係があるか（関係）**、そして**読む本に対する自分の準備があるか（準備）**、もう一つは**勉強した結果を何に使うか（目的）**を考えてください。それがないとたくさん勉強しても無駄になります。

勉強が好きな人はけっこういます。しかし、けっこう時間が無駄になっています。なぜなら、きちんと考えないで勉強しているからです。それだけではなく困ったことがあります。読んでも消化することができないことがあります。また、勉強がとても好きで宗教の本を読んでいますが、その本が自分のために良いものか良くないものかを**区別**しないで読んでいます。

例えば、神様を信じていない人（atheist；無神論者）が宗教の本を書いていることがあります。有名な学者、例えば、ハーバード大学、オックスフォード大学の学者でその種類の本を書いている人がいます。

あなたは神様を信じている（信者）とします。興味があるのでその種類の本を読んでみようと考えます。しかし、その種類の本を読むことによってあなたの神様への信仰がなくなる可能性があります。その種類の本は危ない！です。

その種類の学者はもちろん論理的に書いていますね。論理的に神様がいないと説いています。しかし、その種類の方は真理を学ぶための準備は何もしていません。頭だけです。有名になりたい、お金を稼ぎたいという方がほとんどです。とても非道徳的です。

しかし、その種類の本がたくさん売れています。人は何も考えないでその本を読んでいます。その種類の学者の本を読んで自分では何も考えることなく、何も識別することなく、何の議論もせずに、自分の頭の中に入れています。自分の考えはないです。

気を付けないでどんな本かもわからずにその種類の本を勉強しますと今お話しした問題が生じます。これは現実の問題なのです。

スワーミー・トゥリヤーナンダジ（シュリー・ラーマクリシュナの直弟子で、霊的にとても高いレベルの方）が「或るときその種類の本を読んで神様はいないという考えが出たことがあります」と仰っています。そのような高い霊的レベルの方でさえその種類の本から影響を受けたことがありました。

皆さん、もしあなたが神様の信者だったらそのことに気を付けないといけません。**読む本、読まない本の区別**を最初からしないといけないです。

**≪勉強のポイント≫**

たくさんの本があります。しかし、我々の齢には限度があります。無限ではないですね。それからいろいろ障害もあります。そのことを考えますと何が必要ですか。**大事な本だけ**、**エッセンスだけを勉強**しないといけないです。

３つのポイントがあります。一つは勉強する本がたくさんあるということです。例えば、大きな大学の図書館に入りますと分かりますが、本が森のようにたくさんあります。ヒンドゥー語、ベンガル語の本も置いてあります。

例えば、或る日本人がたくさんの本に囲まれた部屋の中に座って集中して本を読んでいる有名な写真があります。元町・中華街駅（みなとみらい線）の通路にその写真があります。皆さん興味がありましたら見てください。

たくさんの本がありますけれど、我々には齢の限度があります。そして最後に目も悪くなる可能性があります。時間の問題、それから、力の問題があります。それだけでなく仕事もたくさんあります。そのために勉強の時間は少ないです。とても気を付けてとても考えて勉強しないといけないです。それが次のポイントです。

面白いサンスクリットのヴァース（verse、小さな詩）があります。

『本、学問は無限みたいです。我々はそんなに長く生きません。障害もたくさん。そして何が必要です？ 本、学問はたくさんありますが**エッセンスだけ読んでください**』

一つたとえがあります。水と牛乳を一緒に混ぜてもハクチョウはその中から牛乳（**エッセンス**）だけを飲みます。クリームがありますね。ハクチョウは水と牛乳の混ぜたものから水の部分を除いてクリームだけ飲んでいます。**あなたもそうしてください。**とても美しいたとえです（『ラーマクリシュナの福音』199頁脚注、463頁参照）。これが最後のポイントです。これらのことをよく考え、よく理解して読んでください。

**≪カタ・ウパニシャッドの勉強への適用１）・Vishaya（ヴィシャヤ）について≫**

カタ・ウパニシャッドの勉強について今説明した４つの基準を適用してみます。**Vishaya**（ヴィシャヤ）（勉強したい内容）を考えてみますと、**我々が勉強したいのは「聖典」です。**聖典は**永遠と無限の存在**について教えています。

普通の学問と聖典とは何が違いますか。普通の学問は科学、経済、社会、芸術、音楽などですが、聖典は永遠と無限の存在についての学問、知識です。ここで、勉強の方法のことを考えてください。世俗的な学問（普通の学問）を理解するためにどのような方法がありますか。

例えば、感覚的な方法があります。例えば、自分の経験、観察、想像、議論によって理解します。例えば、どのように水を作るのかを勉強したいのであれば、実験室に行き、そこで水素と酸素の２種類のガスを反応させると水ができるのを見ることができます。

感覚と頭（知性）によって我々は理解することができます。物質的な学問、世俗的な学問については勉強の方法があります。自分の感覚で、観察、経験で、議論で分かります。しかし、**無限と永遠の存在についてその種類の方法は何の助けにもなりません。**それが違います。

**聖典以外の他の方法では、永遠と無限の存在についての勉強はできません。**それができるのは聖典の勉強だけです。そのことをはっきりと理解してください。聖典だけが永遠と無限の存在を紹介し説明しています。

**＜Shāstram（シャーストラㇺ）＞**

Shāstram（シャーストラㇺ）は聖典の定義です。聖典は「**すべての霊的な無知を取り除く**」ものと定義されます。Shāstram（シャーストラㇺ）には２つの意味があります。

　１．**Shastra（シャストラ）**

　２．**Ajnāta-jnāpakam shāstram（アッギャータ・ギャーパカㇺ・シャーストラㇺ）**

Shastra（シャストラ）は「**武器**」です。それによってすべての霊的な無知を切ります、取り除きます。それでシャストラからシャーストラㇺと言っています。

Ajnāta-jnāpakam shāstram（アッギャータ・ギャーパカㇺ・シャーストラㇺ）は、「**普通の方法では理解すること・知ることができない種類のものを理解する・知るための方法**」がシャーストラㇺであるということです。

例えば、「**永遠**」、「**無限**」は普通の方法では理解することができません。なぜならば、それらの経験はありませんから想像も議論もできません。

例えば、山の上に煙があります。煙がありますから絶対にそこに火があります。火を見ていなくても火があることがわかります。なぜならば、火がないと煙はできませんから。それが推測（inference）です（バガヴァッド・ギーター2015-08-01-大使館講話参照）。

しかし、観察、議論、推測、想像、科学の道具など何を使っても、「**絶対の真理**」のことを理解することはできないです。例えば、「魂」は顕微鏡、望遠鏡で理解することができますか。胸に穴を開けて「魂」があるかないかを顕微鏡で調べましょう（笑い）。Ｘ線写真に「魂」の影が写っていますか（笑い）。

ブラフマンがどこにいるかを望遠鏡で見ることができますか。神様はどこにいます、天国はどこですか、は何をしていますか、閻魔様は何をしていますか、望遠鏡で見ましょう（笑い）。それはできないですね。

「**真理**」のことを理解するためには何が必要でしょうか。シャーストラㇺです。それによってすべての疑いはなくなります。それを我々は勉強したいです。それがヴィシャヤです。

**≪カタ・ウパニシャッドの勉強への適用２）・Sambandha（サㇺバンダ**）**について≫**

次に、**Sambandha**（サㇺバンダ）（関係）についてです。本と我々の勉強したいものとの間に何の関係がありますか。Bodhya（ボーディヤ）とBodhaka（ボーダカ）を考えます。

**Bodhya（ボーディヤ）**

**Bodhaka（ボーダカ）**

ボーディヤは「勉強したいものの内容」です。ボーダカは「それによって勉強することができるもの（本）」です。

我々は何を勉強したいですか。**永遠と無限の存在について勉強したい**です。それがボーディヤです。我々はそれを**カタ・ウパニシャッドによって勉強することができます。**カタ・ウパニシャッドはボーダカです。我々はカタ・ウパニシャッドによって永遠と無限の存在について勉強することができます。それが関係（サㇺバンダ）です。

もし、あなたが料理について勉強したいとき、カタ・ウパニシャッドは助けません（笑い）。カタ・ウパニシャッドに料理のレシピは載っていません。例えば、あなたはお化けの物語を知りたいです。しかし、カタ・ウパニシャッドにお化けの物語はありません。

バガヴァッド・ギーターやウパニシャッドの勉強は「**真理**」の勉強です。普通の面白いものを勉強するのではありません。浅い勉強ではないです。聖典に興味があっても途中で失望して勉強をやめてしまうことのないように、そのことを最初に理解しないといけません。

**≪カタ・ウパニシャッドの勉強への適用３）・Adhikāri（アディカーリ）について≫**

それから**Adhikāri**（アディカーリ）（準備；qualification）です。先ほどお話ししましたように、もしあなたが高いレベルの科学のことを勉強したいのであればその準備がないと全然わかりません。そのように学問の勉強はその準備がないと何も勉強できないです。

聖典の勉強をするためには何が必要ですか。例えば、マハーバーラタ、バーガヴァタム、プラーナがあります。バーガヴァタムにはクリシュナの物語と哲学のことが書かれてあります。バーガヴァタムも聖典ですがそれは神様に対する愛のヨーガ（**バクティー・ヨーガ**）の聖典です。その聖典を勉強するために必要な条件は**神様に対する愛**があるかどうかだけです。**別の準備はいりません。**

また、**カルマ・ヨーガ**の勉強について、例えば、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのカルマ・ヨーガの本『カルマ・ヨーガ－働きのヨーガ』（日本ヴェーダーンタ協会）があります。その勉強のために**特別な準備はいらないです。**実践のためにあなたの身体が元気か元気でないか、それだけです（笑い）。もし病気ありますと治療してください、それだけです。元気だったらいいです。別の準備はないです。

このように、カルマ・ヨーガの聖典の勉強・実践のために特別な準備は必要ないです。それからバクティー・ヨーガのためにも特別な準備は要りません。神様に対する愛だけがあればそれでよいです。**ラージャ・ヨーガ**も同様です。あなたが長い瞑想ができる身体かどうか、それだけでＯＫです。**他の準備はあまり要らないです。**

しかし、**ギャーナ・ヨーガ**の勉強のためには**特別な準備が必要**です。**ウパニシャッド（カタ・ウパニシャッドを含むすべてのウパニシャッド）**はギャーナ・ヨーガの聖典です。その勉強のために本当はいろいろな厳しい基準があります。勉強とは、本の勉強だけでなくそれの実践のことを併せて意味します。

**＜Vedantasāra（ヴェーダーンタ・サーラ）に書かれている準備の条件 ①～④＞**

**Vedantasāra（ヴェーダーンタ・サーラ）**の中に、**何が準備に必要か**について詳しいことが書いてあります。ヴェーダーンタ・サーラはヴェーダーンタ哲学の勉強のためのガイドのようなものです。ヴェーダーンタ、ウパニシャッド、バガヴァッド・ギーターの「**エッセンス**」が何かの説明があります。

Vishaya（ヴィシャヤ）、Sambandha（サㇺバンダ）、Adhikāri（アディカーリ）、Prayojanam（プラヨジャナㇺ）はヴェーダーンタ・サーラの中に書いてあります。「サーラ」とは「**エッセンス**」のことです。著者はサダーナンダ・ヨギ（Sadānanda Yogi）です。ヴェーダーンタ・サーラに書かれている**条件**は４つあります。それを説明します。

① **Nitya-anitya vastu-viveka（ニッテャ－アニッテャ・ヴァストゥ－ヴィヴェーカ）**

nitya（ニッテャ）は「永遠」という意味です。anitya（アニッテャ）はnitya（ニッテャ）に［無、非、不］を表す接頭辞a（ア）がついてnitya（ニッテャ）ではないことを表し、「一時的」という意味になります。

nitya（ニッテャ）は「永遠」、例えば、「魂」です。anitya（アニッテャ）は時間・空間で限定されたものであり、例えば、自分自身がその例です。例えば、自分の身体が「一時的」であることを理解するには自分が亡くならなければならないというわけではなく生きている間に理解することができます。

例えば、自分の写真を見比べてください。子供のときの写真、二十歳の時の写真、結婚のときの写真、六十歳のときの写真、今の写真、それらを比べればどれくらい変化しているかが分かります（笑い）。今日の写真と明日の写真を比べても分かりませんが二十年くらい前の写真と見比べますと分かります。

十歳のころ髪は白かったですか、黒でしたね。その当時の皮膚はとてもきれいでしたが、それも今だんだん変わってきていますね（笑い）。顔もきれいでしたがだんだんとあちこちにしみが出ています（笑い）。歯は全部本物でしたが、今、本物はどれくらいで偽物はどれくらいでしょう（笑い）。からかっているように聞こえるかもしれませんが正しいことでしょう。ですから生きている間に自分の身体が「一時的」であることが写真だけで分かります。

考えてください。あなたが子供のときの友達、親戚の人たちは皆さん今生きていますか。けっこう亡くなっていませんか。そして新しい人がけっこう生まれています。仲良しだった人はどこへ行きましたか。今いない。それを考えると「一時的」であることはすぐ分かります。

問題は見ても理解ができていないことです。「マーヤー」の幻の影響で、「霊的な無知」の影響で見ても理解できていません。そのために**vastu-viveka（ヴァストゥ－ヴィヴェーカ）**、**識別**することが必要です。それを少し詳しく説明します。

vastu（ヴァストゥ）はもの、包括的にいろいろなものを表しています。自然も人間と同じで「永遠」ではありませんね。ヒマラヤもだんだんと小さくなっています。太陽もだんだんと衰えています。自然も人間も建物もすべてそうです。どうしてそのことを言っていますか。

それらはすべて「一時的」なものですが、我々はnitya（ニッテャ）、「永遠」を勉強したいです。「永遠」のものと「一時的」なものとを区別しないと勉強のときに混乱が出ます。ですからそれを最初に**識別**してくださいと言っています。

そうしないと間違ったものにフォーカスする可能性があります。「永遠」の存在を勉強したい、「真理」の勉強をしたいですけれど、「一時的」なものにフォーカスしてしまうと勉強することができなくなります。ですから最初は識別してください。

最初は識別してください。しかしもちろん識別で終わらないです。**識別は窓口**になっているだけです。識別してそこから入ってください。識別がうまく行ったらその後は**「永遠」のことにフォーカス**してください。そうしないと識別の意味はないです。識別は無駄になります。

最初の段階がそれです。次の段階は何でしょうか。

② **Iha-amutra-phala-bhoga virāga（イハ－アムットラ－ファラ－ボーガ・ヴィラーガ）**

Iha（イハ）とはこの世界、amutra（アムットラ）とは天国を意味します。phala-bhoga（ファラ－ボーガ）とはいろいろやり方の結果での楽しみ、世俗的な楽しみのことです。

virāga（ヴィラーガ）は「好きではない」（否定的表現）ということであり、例えば、「**放棄**」（肯定的表現）を意味します。この世界と天国のいろいろな楽しみを放棄するということです。なぜなら、そうしないと「永遠の存在」の勉強はできないからです。

「一時的」なものについて執着がたくさんありますと「永遠」なものの勉強はできないです。その両方はできないです。「一時的」と「永遠」とは反対ですから「一時的」なものをとても好きになると同時に「永遠」なものを好きになることはできないです。両方を好きになるのは矛盾ですね。

日本語のことわざに「水と油」がありますが、「一時的」なものが好きであることと「永遠」なものが好きであることとが「水と油」です。両方一緒にできないです。皆さんがそれも欲しいこれも欲しいと希望しても難しいです。

「一時的」なものを**放棄**しないとヴェーダーンタの勉強を進めることはできません。

聖典では同じことを何回も何回も言っています。ブラフマン、ブラフマン、・・・アートマン、アートマン、・・・と。それはあまり面白くないと考えますか。そう考えるのは「永遠」のこと、ブラフマンのことに本当は興味がないからです。

どうして興味がないのかと言えば、「一時的」なものが好きだからです。そして面白くなくなり勉強が続かなくなります。一度だけ興味を持ちますが、**深い興味**がありません。しかし、本当に「永遠」のことを知りたい人は、聖典の勉強によって**人生のサポート**を得ることができます。

ここで「放棄」の意味を誤解しないでください。その意味は「**中から放棄**」ということです。放棄のためにはお坊さんにならなければいけないのではないかというのが皆さんの一番の混乱ですが、（お坊さんにならなくても）皆さんは「放棄」を実践できます（（『ラーマクリシュナの福音』162頁、251頁等参照）。

「放棄」と聞くとすぐに自分はできないと言いますがそうではないです。言っているのは「中から放棄してください」ということです。家族を持っても全然問題ないです。お母さん、お父さん、旦那さん、全部お世話することができます。

しかし、皆さん、神様と家族を別々にしないでください。神様と家族との関係を作って家族をお世話してください。どのようにすればそれができるでしょうか。家族の中にもブラフマンはいます。**家族の身体は一時的ですけれど家族の魂は永遠です。**そのことを覚えてお世話してください。

我々はいつもそのようには覚えていませんね。いつも身体と心で関係を作っています。もっと深いレベルで関係を作ってください、魂のレベルで。**身体のレベルでの関係は絶対になくなります。魂のレベルでの関係はなくなりません。永遠です。**

ものはチェンジしないで**「態度」と「見方」を心のレベルでチェンジ**してください。

「一時的」と「有限」の楽しみのことを好きになりますと執着が出ます。そうするとヴェーダーンタの勉強はできないです。ヴェーダーンタの勉強をしても結果は何も出ないです。なぜならヴェーダーンタの勉強の内容は「永遠」と「無限」ですから。それをはっきり理解することが大事です。そのために「放棄」が準備になります。

③ **Shama-dama（シャマ－ダマ）等**

６つのいろいろなやり方の実践があります。shama（シャマ）は「心のコントロール」です。dama（ダマ）は「感覚のコントロール」です。パタンジャリのヨーガ・スートラのヤマ・ニヤマに似ています。そのほかに何があるでしょう。

もう一つは「集中」です。集中して勉強します。それからśraddhā（シュラダー）。「信仰」と「尊敬」とを両方併せています。例えば、聖典について、神様について、ブラフマンについて、師（先生）についての「尊敬と信仰」です。

それから「自信」（faith in oneself）です。それもśraddhā（シュラダー）です。ブラフマン、神様、聖典、先生と「自分」に対して尊敬と信仰がないとあまり勉強はできないです。

もう一つあります。uparadhi（ウパラディ）、意味は「引き戻す」（withdrawal）です。心のコントロール、身体のコントロール、感覚のコントロールをしてもまた楽しみのものについて心と感覚がそちらに行きたいなら、また引き戻します。それがウパラディです。

④ **Mumukshuttwam（ムムクシュットワㇺ）**

mukti（ムクティ）は「解脱」です。mumukshu（ムムクシュ）は「**解脱がほしい**」という意味です。これが一番大事なことです。mukti-kāmi（ムクティ－カーミ）、「**解脱の願い**」です。kāmi（カーミ）はkamana（カーマナ）からきています。kamana（カーマナ）は願いという意味です。では、「解脱」とは何でしょうか。

例えば、何回も何回も生まれています、死にます。輪廻ですね。そこからの解放が解脱です。「解脱」は否定的な表現です。「真理を悟る」、「魂を悟る」、「ブラフマンを悟る」が肯定的な表現ですが「解脱」と同じことです。解脱がほしい理由は何でしょうか。

①一時的と永遠の識別もでき（Nitya-anitya vastu-viveka）、それから②世俗的な楽しみ、天国の楽しみを放棄し（Iha-amutra-phala-bhoga virāga）、それから③心のコントロール、身体のコントロールもでき、尊敬もあります（Shama-dama等）。けれども、**「解脱の願い」がないと最終的に何も結果は出ないです。**

①～③は道徳的なこととけっこう関係があります。「道徳的な人」は最初の３つ（①～③）です。しかし、「道徳的な人」と「霊的な人」とは違います。「霊的な人」がMumukshuttwam（ムムクシュットワㇺ）です。

最初の３つのポイントを実践することでサットワ的な（sāttvic）人になることができます。しかし、我々の目的はサットワ的ではありません。我々の目的に達するには**サットワも超越**しないといけないです。なぜならサットワもグナですから。サットワも一つの性質です（（『ラーマクリシュナの福音』224-225頁等参照）。

グナはプラクリティです。プラクリティですから時間と空間で限定されたものです。しかし、我々の目的は「**解脱**」ですからすべてのグナを超越しないといけないです。サットワ的になるのが我々の人生の目的ではないのです。

サットワ的な人も素晴らしいです。しかし人生の目的はそうではない。サットワ的な人も苦しみ、悲しみの可能性があります。サットワ的からラジャス的にレベルダウンの可能性があります。堕落する可能性があります。それが問題です。それを超越しないといけないです。

サットワ的な人もまたラジャス的になる可能性があります。そしてラジャス的からまたタマス的になる可能性があります。［ルド（ludo）というゲーム（マハーラージが子供のころに遊んだゲーム）を例に挙げてサットワ的からラジャス的に、ラジャス的からまたタマス的になる可能性があることを説明］

高いレベルの聖者が誘惑されて堕落してタマス的になる可能性があります。ですから超越しないといけないです。そこまで行かないと安全ではないです。サットワ的状態も永遠ではないですから。それだけではなくサットワ的な人も輪廻があってまた生まれます。生まれますと絶対に苦しみ、悲しみの可能性がけっこう大きいです。

「**解脱が欲しい**」（Mumukshuttwam）が一番大事な準備です。解脱が欲しい人が聖典の勉強をします。解脱が欲しいのであれば他（の準備）は自然に出ます。

生まれますと本当は苦しみ、悲しみばかりです。それを本当に理解しますと「私はまた生まれたくない、もういいです」と解脱が欲しくなります。解脱へのやる気が出ます。その「**解脱の願い**」（mukti-kāmi）がヴェーダーンタの勉強の一番の条件です。

その準備がありますと、たくさん本を勉強しなくても、たくさん聖典の勉強をしなくても、だんだんと自然で他の実践ができます。

それから「解脱の願い」についてもう一つお話しします。インドには４つのカーストがありますね。ブラーミン、クシャトリヤ、ヴァイシャ、シュードラ（スードラ）です。ブラーミンはお坊さん、クシャトリヤは戦士、ヴァイシャはいろいろビジネスする人、シュードラが一番肉体的な仕事でお世話する人です。

昔は、ブラーミン、クシャトリヤ、ヴァイシャ、その３つのカーストだけがヴェーダを勉強することができるという意見がけっこう強くありました。また、ブラーミンだけがヴェーダを勉強することができるというとても狭い考えもありました。

もう一つ、女性は勉強できないという考えもありました。ありましたけれど女性の聖者の名前がウパニシャッドの中に出ています（例えば、ガールギー（Gārgī）；ウパニシャッド講話-9（2016.04.16）参照）。ですからそれは後で決められたことであり、昔は女性も本当は勉強できました。

後世になってだんだんと社会が偏狭になり、その人も勉強できない、そのカーストも勉強できない、女性もできない、ブラーミンだけとなっていきました。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが現れて、本当は勉強したい、例えば、興味があります、やる気がありますという人たち皆さんが勉強できるように、制限（restriction）を全部取り除きました。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、例えば、アメリカ、西洋でたくさんヴェーダーンタを教えましたね。そしてインドに戻ってから「スワーミージ、どうして（彼らに）これを教えていましたか？」と質問されました。

西洋の皆さんは、①phala-bhoga virāga（ファラ－ボーガ・ヴィラーガ）、②Nitya-anitya vastu-viveka（ニッテャ－アニッテャ・ヴァストゥ－ヴィヴェーカ）、③Shama-dama（シャマ－ダマ）などの準備はなかったでしょうから。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは「違います。一番大事な準備が西洋の皆さんにはありました。たくさん楽しんだ結果、楽しみは嫌だという考えが彼らには出ていました。楽しみは一時的なものだ、私は**永遠の幸せが欲しい**と考える人に私は勉強を教えました。全然平気です」と言いました。永遠の幸せの願い、それが④mukti-kāmi（ムクティ－カーミ）です。

**≪カタ・ウパニシャッドの勉強への適用４）・Prayojanam（プラヨジャナㇺ）について≫**

カタ・ウパニシャッドの勉強のための準備は今説明してきましたが、カタ・ウパニシャッドを勉強した結果は何ですか。それを我々は知りたいです。勉強の結果で何を助けますか、どのように助けますか。次回にそれをお話しします。

以上